

愛産研 ニュース 増補版

愛産研ニュース（増補版）

平成 15 年 11 月 5 日発行

No.3

編集・発行

愛知県産業技術研究所 企画連携部

〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割

TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033

URL <http://www.aichi-inst.jp/>

E-mail info@aichi-inst.jp

11 月号
2003

- 今月の内容 ●健康福祉用具開発の今後
●表面粗さ計測へのウェーブレットフィルタの適用
●木質成形体の開発
●プラスチックと耐候(光)試験

健康福祉用具開発の今後

当研究所と財団法人科学技術交流財団が主催し実施している分野別研究会の中に「健康福祉用具開発研究会」があります。この研究会は平成6年に福祉に関しては全国に先駆けた研究会として、新商品の開発をめざす企業はもちろん、医療・福祉関係者、流通、大学等の研究者などの異業種で構成され約200名の参加者を得てスタートしました。以来、10年にわたり福祉用具の商品化に向けて中間ユーザーや流通関係者、先進的な取り組みをしている企業、団体等から講師を招き、情報提供と開発の支援を行ってきました。

その結果、NEDO等の公的助成の活用による開発や医療機関との連携支援などにより50社を越える企業が商品化し、所期の目的である交流と連携の成果を実現しています。この成果は、第二創業として自社商品を立ち上げ、さらに第2、第3の新製品を開発し販売促進を図る企業、大学や国立研究所、公設試験研究機関の研究成果を活用して共同開発する企業、共用品やユニバーサルデザインの方向にシフトする企業、第三創業（福祉サービス）、第四創業（施設経営）をめざす企業などに発展しています。

しかし、21世紀の成長産業として期待さ

れてきた福祉産業は、高齢化の進展や介護保険という追い風があるにもかかわらず事業化に苦戦を強いられています。その福祉用具の市場規模は、2001年度で約1兆2000億円、これに共用品も含めた広義の福祉用具市場規模は約3兆2000億円と推計されています。今後ますます高齢者人口が増加するところから、この市場規模は拡大すると見込まれていますが、健常者を対象にした商品と違い、使用する人が限定されるだけになかなかこの分野でヒット商品を生み出すのは厳しいものがあります。

これを解決するキーワードは、最近注目されているユニバーサルデザインです。障害者や高齢者のために開発したものが、誰にでも使いやすく人に優しいユニバーサルなデザインであるということでヒットした商品があります。その代表的な例として、長い柄の靴滑り、ライター、眼鏡、さらにシャワートイレなどがあげられます。これらは最初から意図した結果ではありませんが、福祉用具はこれ以外にもヒット商品を生み出す「宝の山」といわれています。今後、より一層の交流と開発支援によりこの健康福祉用具開発研究会からのヒット商品の誕生が期待されます。



技術支援部 応用技術室長 稲垣三喜男(minagaki@aichi-inst.jp)